



J・A・C

(第23号)

千葉支部だより

発行者 諏訪吉春
編集者 結城純一

2013年千葉支部総会 全議案を承認、新執行部が発足



今年度の事業計画や収支予算案などを審議する公益社団法人・日本山岳会千葉支部の2013年度通常総会が5月18日、千葉市内で開かれた。支部会員93人のうち、28人が出席した。30人から委任状が提出され、規約(三分の一の出席)に基づき大会は成立。12年度事業報告及び収支決算や13年度事業計画及び収支予算案、支部役員選任案など3議案が、いずれも満場一致で承認された。

今年度の事業には、初の支部海外山行となる台湾・雪山(標高3886m)への登頂を7月に目指すほか、足掛け3年で歩き通した『房総半

島の分水嶺踏査報告書』の発行、さらに丹沢大山、赤城山、諏訪山、榛名富士、荒船山、塔ヶ岳など JAC 本部が計画した『日本300名山』リメイク版編集への取材協力などが盛り込まれている。

新執行部体制も決まり、創立時から支部運営の陣頭に立った篠崎仁・前支部長の後任に選ばれた諏訪新支部長は「みなさんの協力で素晴らしい支部をつくりあげたい」とあいさつした。また、豊倉さと子・前事務局長の後任には谷内剛会員が決まった。

和やかに懇親会

懇親会は、総会会場から少し離れた千葉中央公園の隣にある「美弥和」に移り、和やかに開かれた。店のオーナーの井上元さんは、奥さんの京さんとともに会友でもある。JAC 副会長の吉永英明会員が「山岳会は存亡の危機にある。もっともっと活動を活発にして会員を増やしていこう」と力強くあいさつ。4月に会員

となった高橋琢子さんを紹介した。高橋さんは「右も左も分かりませんが、山の仲間になれてうれしいです」と話した。

三木雄三副支部長が「今年は巳年。へびは脱皮を繰り返して大きくなる。千葉支部も脱皮して、さらに大きく飛躍しよう」と乾杯した。

谷内新事務局長の中締めまで、会員相互の

楽しい集いは延々と続いた。

(三木雄三)

記念講演会

総会後の記念講演会は、千葉支部会員の安間繁樹さんに「ボルネオの自然の魅力について」と題して、プロジェクターを活用しながら、ボルネオ滞在歴15年の長い現地での居住経験からしか知りえない、ボルネオの自然、その圧倒的な動・植物の生態の貴重なお話をして戴きました。



安間さんは1965年、西表島にて発見されたイリオモテヤマネコに強い興味を持たれたのが野生動物との出会いと話され、青春を賭けて西表島の調査に没頭された。1985年、ボルネオ島に渡り、以来、国際協力事業団(JICA)専門家として、カリマンタン、ブルネイ、サバに滞在しました。ボルネオは周囲5千キロ、日本列島の2倍の広さがあり世界で3番目に大きな島で、人口は1800万人、哺乳類は実に223種にも昇る。世界遺産に登録された、アジア最高峰のキナバル山(標高:4,093M)があり、3,200Mにある小屋に宿泊すれば、安定した花崗岩のため危険の少ない山のため、日本でも人気の高い山域である。人々はインドネシア系、マレー系、ボルネオ系に分かれ、

四分の三はインドネシア系で占められるも、政治を担うのはマレー系、経済は華僑との事。先住民族の暮らした長大家屋は実に中央の廊下は100Mにも達するほど長い。彼等は首狩り族であり、焼き畑農業を主とし、人口が少ないのは首狩り族の習性が人口調節機能を果たしていたとの、安間説は大変面白く、後に、首狩りの風習が禁止されると、人口の大爆発が起きた。また、マングローブが密生する肥沃な土壌は無数のプランクトンが存在し、魚類を含めた生態系の豊富となっている。マグロが食べられるのもマングローブのお蔭であるとの話に皆さん納得。熱帯多雨林は低地混交フタバガキ林で占められ、標高は1200Mまで、ラワン材として活用された。

熱帯植物として、寄生植物のケーシーラフネシア、食虫植物のウツボカズラはキナバル山固有種で、三箇所で見られる。熱帯動物として、オラウータン、アジアゾウ、髭イノシシ、テングザル、ジャワジャコウネコ、サイチョウ、セイラン、コシアカキジ、アジアヘビウ、イリエワニ、コウハシショウビン、等々の紹介をご自身が写された写真の実地体験を交えて、興味深く話されました。特に、28年前に初めて入島した時と比べて、現在のボルネオは自然が文明の影響を受け変化した旨を告げる寂しそうな講師の眼が印象的でした。

(諏訪吉春)

支部総会・懇親会参加者は次の通り

石岡慎介、岩尾富士夫、小澤けい子、鎌倉淑子、黒田正雄、小板橋志朗、櫻田直克、佐藤明夫、塩澤厚、篠崎仁、鈴木美代、諏訪吉春、高橋琢子、高橋正彦、竹島正義、谷内剛、豊倉さと子、新村貞男、日色健人、三木雄三、柳下忠義、安間繁樹、山口文嗣、山崎完治、結城純一、湯下正子、吉永英明、吉村彰彦、吉野聡、渡邊信一。(以上は会員)。

会友の参加者は 柳川しげよ、塩塚正二。

(敬称略)

2013 年度行 千葉支部総会記念山行

船塚山～俵田古墳山行報告

期日 2013 年 5 月 19 日(日)

参加者 篠崎仁、諏訪吉春、鈴木美代、山崎完治、小沢けい子、豊倉さと子、三木雄三、
高橋正彦、塩塚生二、柳川しげよ、高橋琢子、湯下正子、吉永英明、大浦陽子、
金子有美子、柳下忠義、山口文嗣、
(敬称略)

記念山行の当日は前日までの雨模様の予報と変わって、朝から日の差す汗ばむほどの天気になった。陽気のせいか木更津で乗換えず、君津まで乗り越してしまった人も数人いたが、無事久留里線下郡駅で合流し、予定通り出発する。登山口の山本集落には「殿の下井戸」という自噴井戸が数ヶ所にあり、冷たくおいしい水が湧いている。水を汲みに来ている人の車が数台並んでいる。集落の奥から竹林の道に入り、飯高神社の長い階段を上る。一旦林道にでて桜並木の間を一登りで船塚山の山頂に着く。船塚神社の社殿があり、手前に君津市の保存樹木に指定されている、樹齢百年以上のヤマザクラがある。気温が高いせいで、視界悪いが、眼下には小櫃平野から市原方面の東京湾岸の工場群が望まれる。東側は広い草原になっていて、中ほどに二等三角点がある。昔草競馬が行われた場所で、戦時中には軍馬の調教所として使われていたという。この広場は林道の途中ですれ違った地元の船塚山を守る会の方々が草刈りをおこなったばかりのようである。

広場の東南隅から浅間山への山道が続いている。尾根上の歩き易い道で、やがて前方にスダジイの繁った小山が見えると、そこが浅間山山頂で浅間神社の社が祭ってある。山頂下の展望の良い斜面で昼食後、飯高神社の階段より長い石段を下り、浅間神社登山口の赤い鳥居をくぐり、三田の集落に出る。大友皇子(弘文天皇)とその臣下が切腹したという言い伝えのある御腹川を渡り、左の山道に入る。飯縄権現の社を過ぎると大友皇子が御所を設営したと言われている壬申山に着く。以前にあった古い社は取り壊されていて、基礎石だけが残っている。元の道に戻り貯水池から俵田の方へ下り、久留里街道に出て小櫃駅方向に向かうと右側に白山神社がある。神社の右背後に前方後円墳があり、これも弘文天皇の墓という伝説があるが、現地の案内板には馬来田の国造関係の有力者の墓との説明がある。再び久留里街道に出て北へ行木、御腹川を渡り返すと直ぐに小櫃駅であった。

(山口 文嗣)

千葉支部 支部長就任に当たり

諏訪 吉春

平成 25 年度千葉支部総会後の役員互選により、このたび前任の篠崎仁支部長の後任として、支部長職の要職を引き受ける事になりました。新任の支部長として、千葉支部会員および会友の皆様方にご挨拶申し上げます。2007 年 6 月の千葉支部設立以来、三期六年に渡り篠崎支部長のリーダーシップのもとに、千葉支部は「新しい出会いの場をつくりクラブライフの向上に寄与する」ことを理念とし、支部会員同士の親睦を第一義として活動を行って参りました。そして、昨年4月1日をもって、私達日本山岳会は公益社団法人として新たな旅立ちをする事になりました。これに伴い、今後は支部の年間活動計画の中に自ずと公益法人としての責務(公益活動の実施)を果たす事が求められております。

昨今の山ガール等の若年層の登山ブームを背景に、今年は富士山が世界文化遺産としての登録が予定され、益々、登山文化の底辺の拡大が進むものと思われます。この2年程は日本山岳会員の高齢化と会員数の減少に漸く歯止めがかかり、これから反転攻勢し、更なる会員組織の増強と次の 100 年を目指した新体制を構築すべき大事な節目の年になるのかなと考えております。

山と山の文化を愛する私達ですから、まず、楽しい、魅力ある山行企画を会員・会友の方々に提供して、一人でも多くの参加者を募って行きたいと思えます。“千葉という地域性を尊重し、同じ止まり木のなかで山を歩き山を語り、支部会員・会友すべてが参画できる小集団としての特性を活かした支部づくり”を目指して、今後とも頑張って参る所存ですので、どうかよろしくお願い申し上げます。

退任にあたり 感謝のことば

篠崎 仁

千葉支部が設立されて 3 期 6 年が経過、本年 5 月で支部長を任期満了退任いたしました。何とか任を全うできたのは、偏に支部会員・会友のみなさまのご支援によるものでありこころより御礼申し上げます。

理事在任中の 2006 年 12 月、千葉支部設立の話を突然持ちかけられました。東京に隣接するはじめての支部ということで、千葉県在住者の意見を聞いてみるとさまざまでした。「千葉に支部はいらない」、「時期尚早、1~2 年かけてじっくり検討すればよい」という声も少なくありませんでした。一方では、栃木・茨城両支部設立のはなしが具体的に進行しており、千葉も同時にという強い要請がありました。結局十分な検討の時間もないまま同時期発足を決意しました。

2007 年 1 月 25 日に有志による準備会開催、翌月 28 日に発起人会を正式にスタートさせ 6 月 24 日の設立総会を目指し一気呵成に準備を進めました。検討を始めて実質5ヶ月での設立は、最短記録ではないかと思っています。

初回の発起人会はほとんどの人が「はじめまして」のあいさつで始まるという状況でしたが、みな献身的に労を惜しまず準備を進めてくれました。さいわい千葉県在住の多くの皆さんが賛同・入会してくれ、101 名の入会申込書が届いたときは発起人一同安堵の胸をなで下ろしました。

設立に際し「より楽しいより豊かなJACクラブライフを目指し新しい出会いの場をつくる」ことを目標にしました。具体的には、先ず会員同士が知り合い仲良くなること、山行は先ずは“千葉の山再発見”としました。これは延いては房総半島分水嶺踏査につながっていきました。昨年の全国支部懇談会の開催は全千葉支部を挙げての行事でしたが、これは支部の結束を固め今後の支部活動を進めていく上で大きな自信につながったと考えています。諏訪吉春新支部長は、支部設立にあたっては労を惜しまず率先準備の段取りを進めてくれました。千葉支部について最もよく知っており、そしてすぐれたリーダーシップの持ち主です。新たなステップを踏み出した千葉支部の展開を、心をおどらせながら楽しみにしております。

強風で厳しかった冬の北八つ・天狗岳



期日 2013年3月9日(土)～10日(日)

参加者 岩尾富士夫、山口文嗣、
吉永英明、諏訪吉春、
田代貴征、柳川しげよ

(敬称略)

3月9日千葉駅発6時38分のあずさ3号に、1名欠席で6名が乗車し茅野に向かった。

車窓からはうっすらと雪化粧をした甲斐駒ヶ岳が見えた。完全装備で向かったのに、春爛漫で連日高温が続き、街の中には雪は見当たらずとにかく暑い。

11時40分渋の湯バス停に到着。岩尾さんをリーダーにゆるゆると登山道を歩きだした。足元の雪は水分を多量に含み、シャーベット状だった。尻もちをつけば着替えがない。帰りの電車に困ってしまう。

出発して1時間ほどすると、しらびその中を歩いている足元の雪は、すでに白いパウダー状に変わっていた。急な場所はストックが助けてくれた。今日は、風の音がやや聞こえるが、心地よい。雲ひとつない快晴。申し分ない。明日もこの天気のままできて欲しい。

14時30分、予定通り黒百合ヒュッテに到着。土曜日とあって、山小屋は大勢の登山者でごった返していた。

雪山2日目で技術不足、体力不足など多くの不安を抱いての参加だった。明日に備えキックステップ、滑落停止練習を山口さんより受けることができ、少し緊張がほどけたような気分になった。この日に備えて初めてピッケルを購入したが、そう簡単に使いこなせるものではなかった。電気もなくテレビもない山小屋での夜は長いのに早く夕食をとりたいと思っていたが、結局3グループで最後だった。山小屋での夜の楽しみでもある満天の星にも会えた。

きつと 明日も良い天気に恵まれますようにと祈った。私たちの寝床は3階の屋根裏で6名が並んで休んだ。早々に入眠していた人たちからは気持よさそうないびきが聞こえていた。

3月10日天候くもり。西風強い中、7時天狗岳に向け6名が山小屋を出発した。他のグループは、ゆっくり天気が下り坂に向かっていたことから、早朝出発しており、私たちはゆっくりめの出発になった。中山峠から天狗岳がくっきりと見えた。天候は決して甘くはなかった。体のバランスが崩れるほど西風が強かった。

登頂はあきらめなくてはいいけないかと不安が頭をよぎった。対処方法を教えていただきながらリーダーの後を歩いた。さすがにリーダーの足並みにくるとはなく、軽やかだった。山頂に近づくにつれ、雪はなく岩肌がむき出しで、アイゼンの爪が当たり、ゴツゴツと音をたてていた。

8時25分東天狗岳2646mに到着。本当ならアルプスが一望できるはずなのに、視界が悪く残念。それでも頂上に立てたのは嬉しかった。皆で記念写真を撮って、すぐに慎重に下山を開始した。空模様は急に悪くなり、下山の足も早まった。11時渋の湯バス停に到着。バスの時間の関係で渋の湯に入ることはできなかった。昨日よりもさらに雪解けが進んでおり、川の流れが勢いを増して、もう春が訪れていた。前回と同様駅前のそば屋で反省会。14時19分発特急で千葉へ向かった。今回強風で厳しい山行となったが、無事に下山できたことが何よりだった。

(柳川 しげよ)

経塚山に参加して



期 日 2013年3月17日(日)

参加者 吉永英明、三木雄三、諏訪吉春、岩尾富士夫、山口文嗣、山崎完治、宇津木仁典、
豊倉さと子、高橋琢子、湯下正子、小澤けい子 (敬称略)

今回の山行は千葉支部分水嶺の最終目的に到達したことを記念して一泊した後の経塚山に参加しました。

宿からバスで館山駅にもどり、館山駅近くにある「中村屋」というパン屋さんに寄ってアンパンが美味しいと評判のパンなどを買い経塚山に向かうバスに乗り換えて出発しました。

最終のバス停から一般の道路をワイワイ話しながらどんな山に登るのだろうと期待しながら歩き始めた。途中で剣豪の出身地と言われて小野忠明(御子神典膳)石碑のある場所で最初の休憩を取る。公園のように整備された気持ち良い場所だった。

その後しばらく道路歩きが続いた、その時に歩いているのは我々だけであったがその横をすごいスピードの走り抜けていくサイクリングをしているグループに何組も出会った。ロードを走る練習をしているようだった。

いよいよ経塚山登山口とある場所から登り始めた。最初は幅の広い山道を歩く。途中で小さな祠を祭ってある山道を通る。私の田舎にもこのような祠があり、このような山村で昔は走り回ったことを懐かしく思い出しました。

道幅が細くなってきたなあと感じる間もなく、急登が見えてきたので登りに弱い私は覚悟を決めてゆっくりと登る。大きな大木がきれいに

並んでいる平な山道をしばらく歩くともうそこは頂上であった。この並木のようにきれいに並んでいる木は「まてばし」と説明があった。

頂上から先に「アング岩」と言われている場所まで行って足を延ばした。この岩はこの場所では考えられない大きさであり、よく見るとカエルの形が見えた。

雨を降らせるために祭ったもののようだ。頂上を知らせる看板があり、そこには「房州低名山」310,7mと記してあったのが面白かった。その周りを見てみると見晴らしを確保するために周りの木々が何本も切り倒され、その木でベンチがいくつかつくられていた。それらの木々のことを考えると複雑な気持ちになったがベンチに座わらしてもらい、その山の上から太平洋を眺めながら買ってきたアンパンを美味しく食べました。

帰路は歩き易い坂道を気持ちよくバス停まで戻る。バスに乗り込んでからバスの運転手からこのバス路線は今秋に廃止線になると話を聞き、時代の流れには逆らえないなあと感じた。

今回は昨日の分水嶺最終踏破とこの経塚山と房総半島にある山歩きを十分に堪能した山行であった。

(小澤けい子)

晴香園の子どもたちと共に高尾山へ



「春分の日」の祭日に晴香園の子どもと、職員、そして我々日本山岳会千葉支部メンバーで高尾山へ。子どもたちは全員初挑戦です。

今回の参加構成は、こどもたちは小学4年生2名、5年生1名、中学1年生3名、中学3年生3人の計9名。うち男性が5人と女性が4人。職員は先生2名と施設長の3名。千葉支部は10名で総勢22名での登山となりました。

JR 高尾駅に全員集合、皆で軽く体を動かしていよいよスタートです。

千葉支部のリーダー三木さんから植物の話やら地形の話など聞きながら子どもたちは頂上を目指しました。時々疲れた様子も見られたが、さすが大人を尻目に最後はパワー

満開で頂上へ。

皆で食べたお弁当となめこ汁は特別おいしかったことと思います。



晴香園の子どもの中から小学生の唯ちゃんと中学生(現在は高校生)のあゆみさんが感想文を寄せてくれたので以下に紹介します。

(豊倉さと子)

「高尾山に登って」 唯

私は、はじめて高尾山に登って、おもしろかったです。さいしょに高尾山口に行きました。そのつぎにバスに乗りました。バスを乗っていて、いろいろなさくらをみれてうれしかったです。バスをおりてじゅんびうんどうをするまえにいろいろなきのみがあつて、どんなきのみかきき、いっぱいあつまって、うれしかったです。じゅんびうんどうをしておわったら、山に登りました。山にはいろいろな草、しゆくぶつがあり、たのしかったです。私は、きつねのかみそりというしゆくぶつがあるかもとかいてあったので、さがしましたが、ありませんでした。でもいろいろなしゆくぶつをしれてうれしかったです。山にはさわというのがありました。山の水は、すごくおいしかったです。そのあと、山にずっとのぼつて、おやつ休けいをしました。すすんでいるとヘビがいてびっくりしました。ずっとすすんでいろいろなしゆくぶつをおしえてもらいました。そして、上につきごはん休けいでなめこ汁とジュースどっちがいいときかれて私は「ジュース」がいいといって、ジュースにしました。そして、なめこ汁もすこし、飲ましてもらいました。すごくおいしかったです。そしてまた、山にくだつていきました。のぼりよりはすごくたのしかったです。くだりでは、あしをくじいてしまいましたがたのしかったからよかったです。この高尾山につれていってくれてありがとうという気持ちと、高尾山をぜんぶのぼれてうれしい気持ちが一番のおもいでだと思います。またきたいです。

「高尾山に登って」 あゆみ

私は高尾山に登って一番印象に残った事は、皆で最後まであきらめず登りきる事が出来た事です。

最初は嫌だなどか登りたくないなという思いがありました。けれど資料を見た時に、やっぱり登ろうという思いが出てきました。

そして当日、私は朝六時に起きて家を出る準備をしました。家を出て外に行くとのメンバーも準備をして待っていました。いっしょに行く職員は朝おにぎりを作ってくれたので、それを皆一人ずつ二個持って出発しました。最初に向かったのは北小金駅でした。その駅に向かうまでの道のりはとても遠く感じました。なんで朝早く起きて行かなければならないのかと思いました。けど楽しい登山がまっているから頑張ろうと思いました。私の目標は、あきらめずに全部登りきる事でした。私はあまり歩く事が好きではなく、山に登る事も好きではありませんでした。けど高尾山に登って頂点まで登りきる事が出来た時は、とても自然な所だなと思いました。今まで山に登る事を嫌がっていたけれど、それはまちがっていた事だなと思いました。

私は高尾山に登って思った事は、山には他と違ってとっても自然のあふれる所がたくさんあると思いました。危険な事もたくさんあるけれど、とても楽しい所だなと思いました。私たちにたくさんの事をさせて下さり、どうもありがとうございました。絶対忘れません。今度はもっと高い山に行ってみたいです。サワは忘れません。

秋新緑の鹿野山 ー地図とコンパスで読図ー



期 日 2013年4月20日(土)

参加者 宇津木仁典、小澤けい子、
梶田義弘、高橋琢子、高橋正彦、
豊倉さと子、柳下忠義、山口文嗣、
湯下正子、吉永英明。

(敬称略)

4月より新会員になりました、高橋琢子です。未熟な私ですが、千葉支部のみなさんとの出会いで、山歩きの楽しさや山と自然との関わりなどを考える機会を得ることができ、とても感謝しています。この繋がりを大切にしつつ、一步前に進むつもりでいますので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

さて、会員になって初の山行「鹿野山」へ参加申し込みをすると、その参加要項の返信メールの中に「特に今回めでたく会員になられた高橋琢子さん、先導願いますからよろしく」の文章が…。地図とコンパスもまだ十分使えていないし、まして千葉の山は複雑。もちろん下見もしていない。「そんな一、全員遭難させてしまうよー」と思いつつ、これは、山口さんの“愛の鞭!?”なのだ、と勝手に解釈して、心して参加することにしました。

当日のコースは、①測地観測所～②鳥居岬～③十州三角点～④本村山神社～⑤鹿野山トンネル東～⑥田倉林道～⑦民家跡～⑧小橋～⑨九十九谷公園～⑩白鳥峰～⑪神野寺まで、東西約2.5km、南北約2.0kmを反時計回りに1周するコースです。

緊張の中、午前10時いよいよリーダーとして出発。①までは、本来なら観測所敷地内の道路を行くのですが、なんと春日神社跡地から藪漕ぎ。先が思いやられます。それでもどうにか一等三角点・水準点を確認し、新緑の山並みや内房の海も

眺められました。

これからが本番。②、③、…と歩を進めます。慎重に！慎重に！と思っても緊張で！？足は速くなり、分岐点に自信が持てず幾度となく立ち止まり、地図とコンパスで確認。はたまた、曲がるべき道を通り過ぎた。おまけに、踏み跡に惑わされるしまつ。そんな時助けてくれたのが、「ピーッ！」と真のリーダー山口さんのホイッスルでした。その度に地図とコンパスで丁寧にいくべき方向を教えてもらいました。このホイッスル、つまり山口さんが「いる！」という安心感の中で、私はリーダーという貴重な体験をさせていただいたのです。

そして、午後3時には無事県内で2番目に高い白鳥峰に到着しました。最後まで文句も言わずに、それどころか、心配してくださったり助言してくださったり楽しんでくださったりした参加者のみなさん、本当にありがとうございました。この山行で、リーダーがどんなに大変なことか、本当にたくさんのことを学びました。

もちろん帰りは、リーダーの私(反省だらけ)を先頭に千葉の「美弥和」で楽しい酒宴でした。みなさんが私の新入会・初リーダーをねぎらってください、「千葉の山を読図で歩くという企画は、新入会にいい企画だった。それに、ピーッ！は楽しかったね」と、大いに盛り上がりました。

(高橋琢子)

300名山取材山行スタート 丹沢大山



期 日 2013年5月3日(金)

参加者 黒田正雄、小板橋志朗・紀子、坂上光恵、櫻田直克、諏訪吉春、大悟法雄作、
高橋琢子、豊倉さと子、三木雄三、山崎完治、結城純一、湯下正子。

(敬称略)

日本300名山の調査依頼で丹沢山塊の大山に行くことになり5月3日に行ってきました。天候は晴天で登山日和でした。丹沢山塊で登山を鍛えた私にとっては地元であり我が家の庭のような場所です。丹沢山塊の塔ノ岳は毎月1回登っていたので数えたことがないが1000回ぐらい登っているでしょう。都心から1時間半ぐらいで行けるので高尾山と並んで登山者が多い。一般的な登山口はヤビツ峠、伊勢原口があります。

登山が目的ならヤビツ峠からだが今回は伊勢原口からケーブルを利用し頂上へ、下りは関東ふれあい道でもある日向薬師コースです。このコースは急な下りで長丁場です。登りは約1時間20分、下りは2時間30分です。参加人数は会員・会友で15名でした。小田急線伊勢原駅からバスに乗車約30分弱で着く。そこからケーブル駅までは緩やかで長い石段を15分ぐらい歩きます。連休とあってケーブル駅には乗客が列をつくっていました。15分ていど待ちで乗車できました。私も丹沢を数えきれないほど登っていましたがケーブルの利用は初めてでした。登山開始の下社神社からは長くて急な石段が続くのでうんざりさせられる登山道です。石段が

終われば登山道になり蓑毛やヤビツ峠からの登山道と合流し頂上へと続きます。一汗かいて疲れが出たら頂上です。頂上の展望は正面には山々ないので抜群です。正面は湘南平が開け相模湾、伊豆大島、東側は世界遺産に登録された霊峰富士山が雲の上から顔をだしそびえています。

天候にも恵まれ都心シンボルスカイツリーも見えました。頂上からの下りは急な道なので足元に注意し慎重に下る。膝が笑いはじめたころ展望台に着きます。登山者の多くは二重滝を經由ケーブル駅に向かう。しかしわれらは日向薬師をめざし約1時間20分の歩きが待っている。九十九曲のくねった道下ると舗装道路に出る。舗装道路を歩いて行けば日向薬師バス停に着く。このコースの標準タイムは3時間50分だが調査登山のためゆっくり、のんびりと歩いたので1時間遅れでした。下山後は三木副支部長の音頭で駅前で居酒屋で大反省会・・・？酒を酌み交わし全員無事下山の終了でした。

当日の参考タイム：下社11時35分→山頂12時35分→見晴台14時52分→日向薬師バス停15時30分 (櫻田直克)

第 11 回ぐるっと房総 100kmウォーク大会に参加(4月20日～21日)

低体温症の恐ろしさ感じて

あいにくと気温が3月並みと低く、午後から小雨となり、暮れると本降りとなった。深夜になり、九十九里海岸沿いの道で向い風を受け体温を奪われた。震えが出て脚がよろめき始めたので、こりゃやばい、と思い、次の第7チェックポイントでリタイヤした。80km地点だった。

第6チェックポイントまで順調で、参加者275名中の20番目位を歩いていたが、寒さに老体の耐久力は急速に失たわれたようだ。チェックポイントでリタイヤを告げると、あなたの前に同様にリタイヤした人が意識不明になり、今救急車が来るから、あなたも同乗して病院に行き、手当てを受けたらいいのでは・・と言われた。へそ曲がりの頑固じじいが素直に助言を受け入れた。病院で体温を測ったら 34.9 度だった。やはり低体温症の初期ではないか！

体温を上げる手当て(足湯や湯袋を抱く)を受けると 35.6 度まで回復して震えも止まった。主催者の迎えの車で本部に戻り、そこでお風呂に入れてもらうなどの手厚い措置もあり、平常の状態に戻ることができた。最高齢での参加なので、いろいろ気を使ってくれたのだろう。主催者の方々、サポーターのみなさんには、大変にお世話になり心配もお掛けした。深く感謝しております。

・自分がもう高齢(77)であることを十分認識し、こういう一昼夜におよぶような野外活動は、天候など気象条件が安定している場合に限るべし

・妙な競争意識は捨て、しっかりと歩き通せばいいのだ、という心境でのぞめなど、いくつかの反省点を今かみしめているところです。(もう何度目になるか)

〇〇さんと、言ったわけで、縄張り内を無断で徘徊し、今少しでとんだ騒ぎを引き起こすところでした。深く反省しております。帰宅し一夜明け、朝の新聞を見ると、「雪ニモ負ケズ川内V」とか、冷雨と強風のなか「谷井、(競歩)世界選手権内定」などの記事が目飛び込んできました。これはトップアスリートの世界のことです。よくわかっております。

たかが100km、されど100km です。3月の気温、夜間の降雨、強い海風は、年寄りには予想を上回る脅威でした。いい線でゴールできるかと思ったとたん、打ちのめされました。しかし、後20km！と頑張ったとしたら、多分低体温症で倒れたことでしょう。リタイヤは正解でした。地図をもらって携行していましたが、夜間風雨の中では広げて見ることはできず、ルートの確認に苦労しました。

それにしても、やはり若気の至り、でなかった、年寄りの冷や水の感否めません。でもね、70代になってから100kmウォークは4回参加して、全部完歩しています。そういうのが変な自信になっているんでしょうね。初リタイヤ・・いいお灸になりました。

ウォーキングの分野での競技は陸上の競歩以外ありません。で、ウォーキング大会はどこで行われても、順位は問わず、完歩が各人の目標になります。制限時間(今回は30時間)目いっぱい頑張って完歩する方も結構いますが、わたしにはできません。アスリート気分が抜けず、ぎりぎりで歩いていますから、ダメとなったらそこで終えます。よれよれになって、よろめきながらゴールし拍手で迎えらる、などという選択はありません。わたしの場合、最後まで速歩の姿勢を崩さず、しっかり前を向き、マイペースを維持して歩き通す、です。トレーニングもしていますよ。手賀沼湖畔の歩道を一周すると丁度20kmあります。これを一気に2時間40分で歩きます。年寄りが突如100kmに挑戦してもいい歩きはできないです。

この後ですが、5月にも100kmの大会がありますが、それまでに老体は回復しませんので参加は見送ります。6月初旬にある手(脚)頃な30kmの大会に参加する予定です。

(黒田正雄)

夏のビールパーティーのお誘い



今年も暑い夏がやってきます。気象庁の予想では今年の夏は暑くなるとの事です。
この時期に飲むものは、やはり、よく冷えたビールでしょう。
千葉支部では恒例のビールパーティーを今年も下記の通り開催します。
暑い夏の夕べに冷たいビールで喉を潤し、楽しく歓談しませんか。
なるべく多くの会員・会友の皆さんの参加をお待ちしています。

日時 2013 年 8 月 10 日(土) 午後 5 時～7 時

場所 サッポロビール千葉ビール園(船橋市高瀬町 2 番 サッポロビール千葉工場内併設)

電話 047-436-4388

集合場所と時間 JR 津田沼駅

(駅の南口バスレーンの一番奥側)前に午後 4 時集合 ※無料送迎バスを利用します。

募集人数 先着 30 名

会費と料理 4,500 円(ジンギスカン料理およびビール等飲み食べ放題)

申込先 谷内 剛

申込締切日 2013 年 7 月 27 日(土)

晴香園にマウンテンクラブが発足！

3月の高尾山登山をきっかけにして、晴香園にマウンテンクラブが出来ました。メンバーは小学生が4年～6年迄7人、中学生が2名、高校生が1名の計10名、それに職員が2名です。今年は年間4回の日帰り登山を計画しています。予定は下記の通りです。

第1回 6月30日(日)筑波山

第2回 9月22日(日)金時山

第3回 11月17日(日)又は11月24日(日)高水三山

第4回 3月下旬 富山

詳細は豊倉さと子まで

「日本 300 名山ガイドブック」リメイク版編集へのご参加について

会報「山」にて既報の通り、このたび、日本山岳会 31 支部の会員の方々の総力を挙げて、新班「日本三百名山登山ガイド」全三巻の発刊に向けた取材および編集を実施する事になりました。千葉支部では県下に 300 名山の山が無く、主として群馬県下の山を対象に下記の 6 山を担当する事になりました。来年の一月に全ての取材を完了する予定となっております

既に、千葉支部では既に 2 山の取材山行を兼ねた「定例山行」を実施しております。この機会に、ぜひ千葉支部会員・会友の方々のご参加をお願い致します。

記

【千葉支部担当6山名】

- | | |
|----------|------------------------|
| ・大山(丹沢) | 取材山行日:5月3日(実施済) |
| ・赤城山(群馬) | 取材山行日:6月8日(実施済) |
| ・諏訪山(群馬) | 取材山行予定日:9月14日(一泊二日予定) |
| ・荒船山(群馬) | 取材山行予定日:10月26日(一泊二日予定) |
| ・榛名山(群馬) | 取材山行予定日:11月2日 |
| ・搭ヶ岳(丹沢) | 取材山行予定日:12月中旬頃 |

【参加連絡先:「300名山ガイドブック」編集担当委員 山口文嗣まで】

お知らせ

●千葉支部会員の異動報告

6年間のご支援ありがとうございました。

【退会者の方々】

練木允夫 安藤文子

兼宗房子 斉藤嘉嗣

倉俣武男

【入会者の方々】

高橋琢子

宇津木仁典

湯下正子

田代貴征

入会おめでとうございます。これから、よろしくお願いします。

【転部】

芳賀孝郎 → 北海道支部

芳賀淳子 → 北海道支部

芳賀淳子さんには会報16号から23号のスケッチを書いて頂きました

紙面を持ってお礼を申し上げます ありがとうございました

●5月役員会議事録

[日 時] 平成25年5月28日(火)18時30分～市川市

[出席者] 諏訪 三木 谷内 結城 竹島 豊倉 山口 岩尾 小板橋

小澤 坂上 鈴木 大悟法。

[主な審議内容] ①300名山取材山行「丹沢・大山」の報告 ②支部総会記念山行「船塚山～俵田古墳」の報告 ③旅行業法について(募集型登山の注意事項) ④海外山行「台湾・雪山」の準備状況 ⑤全国支部懇談会「静岡」の参加呼びかけ

2013 年度 千葉支部役員会 組織図

支部長 諏訪 吉春

顧問 篠崎 仁

副支部長 三木 雄三

監事 高橋 正彦 竹島 正義

事務局長 谷内 剛

広報・会報委員会 吉野 聡(委員長) 三木 雄三 渡邊 信一 結城 純一(兼任)

集会委員会 結城 純一(委員長) 坂上 光恵 山崎 完治 安間 繁樹(協力委員)
大悟法 雄作(協力委員)

山行委員会 山口 文嗣(委員長) 岩尾 富士夫 小板橋 志朗
鈴木 美代(自然保護委員) 黒田 正雄(協力委員)

総務委員会 小沢 けい子(委員長) 諏訪 吉春 豊倉 さと子
湯下 正子(協力委員)

● 編集後記

「日本山岳史」という雑誌が出ていて買ってみた 岩崎元朗さんの「新宿発、登山電車の追憶」に新宿発 23:55 各駅停車 長野行とアルプス広場が出ていた 私が山登りを始めた高校時代 お金が無く この夜行電車を利用した アルプス広場に新聞を広げて座り 電車のボックスシートか床で寝て山登りに行ったものだ あれから30年 久しぶりに昔のアルバムを開いてみた そこにはニッカボッカの自分がいた 懐かしいが恥ずかしい写真である (結城純一)

